2024 年度
豊橋創造大学 看護学研修センター
事業報告書

Care & Idea
豊橋創造大学

目次

Ⅰ．センターの概要・目的 1
Ⅱ．2024 年度各事業活動状況 2
１．看護技術研修事業 2
■ 看護技術研修会【エビデンスに基づいた摘便の知識と技術（エコー活用含む)】 2
２．研究支援事業 6
■ 研究支援研修【EBP と文献活用力の向上】 6
３．看護実践質向上事業 10
■ 訪問看護ステーション研修 10
■ 家族支援研修会 13
４．卒業生継続教育事業 18
■ 卒業生支援研修会（名称仮） 18
Ⅲ．看護学研修センター運営委員会 20
１．2024 年度運営委員会組織 20
２．2024 年度運営委員会会議 20
Ⅳ．協力教員 21
Ⅴ．看護学研修センター評価委員会 21
１．2024 年度評価委員会組織 21
２．2024 年度評価委員会会議 21
Ⅵ．資料 22
１．新聞掲載（家族支援研修会：2024 年 7 月 1 日（月)） 22
２．新聞掲載（看護技術研修会：2025 年 3 月 17 日（月)） 23

Ⅰ．センターの概要・目的

豊橋創造大学看護学研修センターは、東三河をはじめとする地域の看護の質向上を目的として設置された。医療現場において、看護職は患者や家族の日常的な健康管理、治療の支援、慢性疾患のケア、さらには在宅医療や介護支援など、あらゆる場面で重要な役割を果たしている。看護職は、多職種と連携しながら患者の生活を支え、治療やケアの中心的な役割を担っている。特に近年では、少子高齢化の進行、医療技術の進歩、医療ニーズの多様化により、看護職には高度な専門知識、技術、判断力が求められ、地域との密接な連携が必要不可欠となっている。

本センターでは、地域の看護職が求められる役割を十分に果たせるよう、「看護技術研修事業」「研究支援事業」「看護実践質向上事業」を実施している。看護技術研修事業では、現場の看護職が安全で確実な技術を身につけられる研修プログラムを提供している。研究支援事業では、看護職が自らの課題に基づいた研究活動を進められるよう支援を行い、研究成果を地域に還元することを目指している。また、看護実践質向上事業では、事例検討や訪問看護ステーション実習などを通じて、看護職一人ひとりの実践力強化を図っている。さらに、本学の卒業生に対する継続教育事業も今後開始する予定である。卒業後も最新の情報やスキルを学べる機会を提供することで、卒業生が生涯にわたって専門性を高め、地域に貢献できることを目指している。

Ⅱ．2024 年度各事業活動状況

１．看護技術研修事業

担当：藤井徹也、西澤和義、山本義昭、髙野純平、渡邉富士子

■　看護技術研修会【エビデンスに基づいた摘便の知識と技術（エコー活用含む)】

１）研修目的

本研修は、自力での排泄が困難な対象者に対する看護援助としての摘便について、安全かつ適切な技術を習得することを目的とする。摘便の粘膜損傷のリスクをふまえ、適切なアセスメントの重要性を理解するとともに、現場で活用できる最新の知識・技術を学ぶ。また、安全性の高い摘便技術の習得に加え、エコーを用いた便貯留の観察方法について演習を通して実践的に学び、より質の高い排泄ケアを提供できるようになることを目指す。

２）研修内容

研修日時：2025 年 3 月 16 日（日）　13:00～16:00
開催場所：豊橋創造大学 E 棟 3 階 E34 教室
対象者：看護師、助産師
参加費：500 円
研修構成
第 1 部：講義（60 分）
摘便に関する最新の知識
排便アセスメントへのエコーの活用方法
第 2 部：演習（60 分）
モデルを使用した安全な摘便技術の実践
エコーを用いた便貯留の観察方法
まとめ（30 分）

３）活動内容

（１）参加者募集

・看護学科主催の「実習指導に関する研修会」(2024 年 7 月 8 日）に参加している臨地実習施設の看護職に対して、看護技術研修会の概要と日時を案内した。
・2024 年 12 月に看護学科臨地実習施設に対して、メール（一部郵送）で看護技術研修会の案内文とポスターを送付した。また、2025 年 2 月にリマインドメールを送付した。
・参加者申し込みには Google Forms を利用し、申込期限は 2025 年 2 月 28 日とした。
・参加申込者には、研修会 2 週間前に、研修会案内をメールで送付した。

（２）研修会物品準備

・摘便演習に必要となるモデル「装着型摘便シミュレーター」2 台を本センター予算で購入した。また、業者より同モデル 1 台を研修日のみ借用した。
・エコー演習に必要となるモデル「直腸・膀胱エコーファントム」1 台を業者より研修日のみ借用した。また、エコー機器 2 台についても業者より研修日のみ借用した。

（３）研修会役割担当

講義・まとめ：藤井徹也

摘便演習：髙野純平、渡邉富士子

エコー演習：藤井徹也、西澤和義、山本義昭

４）研修会実施状況

研修参加人数：34 人

５）研修会参加者アンケート結果

回答者数 31/34 人

（１）研修内容について

・わかりやすさ

「とてもわかりやすかった」19 人（61.3%）　「わかりやすかった」12 人（38.7%）

・役立つと感じたか

「はい」31 人（100%）

・どの部分が役立つと感じたか（複数回答）

「摘便技術の基本」28 人（90.3%）　「摘便時の注意点」28（90.3%）

「エコーの活用方法」16 人（51.6%）　「その他」2 人（6.4%）

・今後どのように活用するか（自由記載）

17 件の記載内容の要約

参加者は研修内容を臨床現場での実践やスタッフ教育に積極的に活用する意向を示していた。具体的には、病棟や事業所内で研修内容を周知し、スタッフ間で共有・指導することや、新人教育にも役立てるという声が多かった。また、排便ケアについて、自然な姿勢での排便促進、内服薬の適切な使用や管理、摘便の必要性のアセスメント、便の性状に応じた処置方法の工夫など、より細やかなアセスメントと技術の向上を目指す意見が見られた。さらに、エコーを活用した便の位置評価についても、職場での活用を進めたいとの意見があり、排便管理の質向上を目指す積極的な姿勢がうかがえた。

・研修前と比べて摘便技術に対する自信の変化

「とても自信がついた」5 人（16.1%）　「自信がついた」24 人（77.4%）

「変わらない」1 人（3.2%）　「少し自信がなくなった」1 人（3.2%）

（２）研修方法について

・研修の進行速度

「適切だった」30 人（96.8%）　「やや早かった」1 人（3.2%）

・参加費金額

「安い」23 人（74.2%）　「妥当」8 人（25.8%）

（３）今後取り上げてほしいトピック

13 件の記載内容の要約

今後希望するトピックとしては、「褥瘡の評価や予防、形成メカニズム、ポケット洗浄方法、ポジショニング、体圧分散器具の活用方法」など、褥瘡管理に関する要望が多く挙げられていた。また、

「尿閉時の対応」「気管内吸引」についても関心が高かった。さらに、「エコーを活用した末梢静脈挿入や静脈内穿刺」など、エコーの応用技術に関する研修や、「睡眠、食欲不振など高齢者の日常生活援助」「体位変換の方法とスライドシートの活用」などの日常生活援助技術をシリーズ化した研修を望む声もあった。基礎編から中級・上級編へのステップアップを希望する声もあり、より実践的で応用的な内容へのニーズが高いことがうかがわれた。

６）今後の課題

（１）研修テーマの充実

参加者からは基礎編に加えて、中級や上級編など、さらに実践的・応用的な研修を望む声が多く挙げられた。今後は段階的に学べる研修の企画も必要と考える。参加者の関心が高いテーマとして、褥瘡評価・予防・治療の詳細な内容や、体位変換、体圧分散マットレスの使用方法などが挙げられた。また、エコーを活用した排泄アセスメントに加えて、末梢静脈挿入、静脈内注射など幅広い領域でエコーの活用が期待されていた。これらに特化した研修を企画し、現場のニーズに沿った内容を提供する必要がある。

（２） 研修効果のフォローアップと評価体制の構築

研修後に実際に学んだ技術や知識が現場で適切に活用されているかを把握することが必要である。これにより、研修効果を客観的に測定し、改善点を見出して次回以降の研修計画に反映することができる。

※参考資料

豊橋創造大学

看護学研修センター研修会

エビデンスに基づいた摘便の知識と技術

《エコー活用含む》

「摘便」は、自力で排泄が困難な対象者への看護援助です。日本看護技術学会では、医療者の手技により粘膜損傷を生じる危険性があることや、グリセリン浣腸と摘便の併用の実施は避けた方が良いことを指摘しています。安全な摘便の技術には、適切なアセスメントが重要となります。

今回の研修では、すぐに現場で活かせる最新の知識の紹介と安全性の高い摘便の技術・エコーでの便貯留の観察を演習を通して習得します。

対　象：看護師、助産師
場　所：豊橋創造大学　E棟3階　E34教室　　修了証が発行されます
参加費：500円（当日現金による支払い）　＊おつりがないようにお願いします

2025年3月16日（日）
13:00～16:00
12：30～受付開始

第1部：講義
摘便に必要な最新の知識と
エコーの活用方法

第2部：演習
エコーでの便貯留の観察と
モデルを使用した安全な摘便の技術

ご予約・お問い合わせ

豊橋創造大学看護学研修センター内
ナーシングテクニック担当
E-mail：t.kango-kensyu@sozo.ac.jp

【お申し込み方法】
右のQRコードより
お申込みください

締め切り2025年2月28日

２．研究支援事業

担当：桂川純子、原沢優子

■　研究支援研修【EBP と文献活用力の向上】

１）研修目的

本研修は、看護実践におけるエビデンスに基づいた実践（Evidence-Based Practice, EBP）と文献活用力の向上を目的とする。看護現場では、日々の実践の中で様々な疑問が生じるが、その解決には研究の知見が有用となる場合が多い。これらの知見を適切に活用するためには、信頼性の高い文献を検索し、クリティークする能力が求められる。研修では、EBP の基本概念を学び、文献検索の実際と研究論文の読み方について講義と演習を通じて習得する。これにより、参加者は自身の看護実践や研究活動において、より質の高いエビデンスを活用できるようになることを目指す。

２）研修内容

研修日時

第 1 クール

① EBP と文献の活用（講義）2024 年 9 月 23 日（月・祝）10:40～12:10

② 文献検索の実際（演習）2024 年 10 月 2 日（水）10:40～12:10

③ 研究論文の読み方（講義・演習）2024 年 10 月 24 日（木）10:40～12:10

第 2 クール

① EBP と文献の活用（講義）2024 年 11 月 6 日（水）17:30～19:00

② 文献検索の実際（演習）2024 年 11 月 13 日（水）17:30～19:00

③ 研究論文の読み方（講義・演習）2024 年 12 月 3 日（火）17:30～19:00

開催場所：豊橋創造大学 図書館 他

対象者：研究論文の活用や看護学研究に関心がある看護職者のうち、3 日間の研修プログラムに参加できる者

参加費：500 円

募集人数：各クール 6 名（最低開講人数 2 名）

研修構成

第 1 回：「EBP と文献の活用」

内容：看護実践における EBP の重要性と文献の活用方法についての講義

第 2 回：「文献検索の実際」

内容：信頼できる文献の検索方法についての実践演習

第 3 回：「研究論文の読み方」

内容：研究論文の批判的読解力を向上させるための講義と演習

３）活動内容

（１）参加者募集

・2024 年 6 月に看護学科臨地実習施設に対して、メール（一部郵送）で研究支援研修会の案内文とポスターを送付した。

・参加者申し込みには Google Forms を利用し、申込期限は：7 月 1 日～7 月 31 日とした。

（２）研修会準備

・参加者のレディネスについて、事前アンケートで把握し、講師間で共有した。

・参加者が本学図書館の設備や文献検索システムが利用できるよう、参加者用アカウントの準備を行った。

（３）研修会役割担当

第 1 回講師：原沢優子

第 2 回講師：桂川純子

第 3 回講師：桂川純子、原沢優子

４）研修会実施状況

第 1 クール参加者：4 名　第 2 クール参加者：申込者なし

第 1 クールの参加者 4 名は、3 回のプログラムに全て参加して研修を受けることができた。また、図書館の文献検索システムを利用して、各自のテーマに関する文献を検索することができた。

５）研修会参加者アンケート結果

回答者数 3 名/4 名

（１）各回の満足度

a.5 段階評価結果

第 1 回：5(3 名)　第 2 回：5(2 名)、4(1 名)　第 3 回：5(3 名)

b.回答理由の概要

・EBP の基礎を知ることができ、文献検索が看護研究に繋がることを理解できた。

・看護研究に取り組むための知識を学び直す良い機会になった。

・内容が丁寧で、教わりたかった内容が網羅されていた。

・実際に文献検索を行うことで、学びを深めることができた。

・事前課題でのクリティーク実習が非常に有益だった。

・「良くなかったとは言わずに、研究者にねぎらいの気持ちを持つことが大切」という講義内容が理解を深めた。

・クリティークのアプローチに対する意識が変わり、これから学びたいという意欲が高まった。

（２）開講時期、時間、曜日について

a.開講時期

「もっと早い時期(4～7 月など)に行った方がよい」(1 名)、「開講時期は丁度良かった」(1 名)、「開講時期に希望はない」(1 名)

b.開講時間

「開講時間（10:40～12:10）はちょうど良かった」(3 名)

c.曜日

「平日に行った方がよい」(1 名)、「開講日に希望はない」(2 名)

（３）1 クールの回数

「ちょうどよい」(2 名)、「もっと受けたい」(1 名)

回答理由概要

・復習が負担なくでき、講義後の演習で自分の課題に気づけて良かった。

・1 回の時間が長すぎると集中できないので、3 回の構成がちょうど良かった。回数が増えると休みが取りづらくなる。
・非常に分かりやすく、勉強になった。

（4）参加費に対する意見の概要

・1 回 1000 円×3 回=3000 円でも安いと思うが、このくらいだと負担なく受講できる。
・500 円から高くても 1000 円までが受けてみようと思える。
・1 万円以上でも受講したいと思う。

（5）今回の広報方法への意見の概要

・院内全体の看護師が目にしたとは思えない。
・院内メールで案内を目にしたが文書のみであり、ポスター画像はダウンロードしないと見れなかったため、興味ない人はポスターまで見てないと感じた。

（5）今後の研究支援研修への希望の概要

・研究に関する他のシリーズも開催して欲しい。
・データ分析を学びたい。
・有料で良いので、自己研究をする場合の支援

6）今後の課題

（1）広報方法

第 2 クールでは申し込みがなかったため、広報活動を強化する必要がある。病院の看護師全体に研修案内が広まっていないとの意見もあり、ポスターや案内メールの見直し、SNS の活用による広報の多角化を検討する。

（2）開講時期の調整

早期の開催を希望する参加者が一定数いるため、次回以降の実施時期について早めに案内を行うことが必要である。

（3）研修時間と回数

1 クールの回数は「ちょうど良い」という意見が多いが、さらに学びたいという声もあった。今後は、研修内容を充実させる一方で、参加者の負担を考慮し、時間や回数の調整が必要である。

（4）参加費

参加費については、500 円という設定は負担が少なく、参加者の満足度が高かった。しかし、将来的にさらに充実した内容を提供するためには、参加費を適正に設定し、受講者に負担を感じさせない範囲で調整することが必要である。

（5）研修内容

参加者からは「データ分析」や「自己研究支援」に関する研修の希望があり、研修内容をさらに充実させられるよう検討する。研究活動を支援するための実践的な内容も重要である。

（6）研究報告会（仮）の開催

研究実施に関する研修だけでなく、今後は地域の看護職が研究した結果を発表し、参加者とディスカッションできる機会を設けることも検討していく。

※参考資料

豊橋創造大学看護学研修センター研究支援事業

「EBP と文献活用力の向上」研修

豊橋創造大学看護学研修センターでは、研究支援事業として「EBP(Evidence Based Practice)と文献活用力の向上」研修を実施することになりました。看護実践における様々な疑問の中には、研究の知見が解決のヒントとなることがあります。これを活用するためには、信頼できる文献に出会う方法や、文献を読む力を身につけることが必要です。本研修にご参加いただくことで文献検索力や文献クリティーク力が高められ、日々の臨床活動、研究活動の一助となることが期待されます。ご参加お待ちしております。

1. 対象者：研究論文の活用や看護学研究に関心がある看護職者のうち
   3 日間の研修プログラムに参加できる方
2. 場所：豊橋創造大学 図書館 他
3. 日程・内容：下記表を参照
4. 参加費：500 円
5. 募集人数：各クール 6 名（最低開講人数 2 名） 少人数での研修です！
6. 募集期間（各クール共通）：7 月 1 日（月）～7 月 31 日（水）（応募多数の場合は抽選）
7. 申込方法：下記 QR コードから必要事項をご入力の上お申し込みください

本学図書館の医中誌などデータベースを今年度使用できるようになります！

プログラム	第 1 クール	第 2 クール
① EBP と文献の活用（講義 90 分） 講師：看護学科 教授 原沢優子	2024 年 9 月 23 日（月祝） 10:40～12:10	2024 年 11 月 6 日（水） 17:30～19:00
② 文献検索の実際（演習 90 分） 講師：看護学科 教授 桂川純子	2024 年 10 月 2 日（水） 10:40～12:10	2024 年 11 月 13 日（水） 17:30～19:00
③ 研究論文の読み方（講義・演習 90 分） 講師：看護学科 教授 原沢優子、教授 桂川純子	2024 年 10 月 24 日（木） 10:40～12:10	2024 年 12 月 3 日（火） 17:30～19:00

大学 PC で、ご自身のテーマの文献検索を行えます

【お申込み QR コード】

【お問い合わせ】
豊橋創造大学 看護学研修センター
〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下 20-1
r.kango-kensyu@sozo.ac.jp
研究支援事業担当：桂川

Care & Idea
TOYOHASHI SOZO UNIVERSITY

３．看護実践質向上事業

■　訪問看護ステーション研修

担当：蒔田寛子、笹木りゆこ、井上直子

１）研修目的

社会の変化を背景に、医療は病院医療中心から在宅医療中心へとシフトしている。急性期の病院では退院調整、退院支援、多職種連携が重要になってきており、取り組まれているが、在宅医療の実際を経験する機会は少ない。

病気・障害をもちながらも自宅で療養生活している対象者の実態と、療養生活支援の専門職としての看護の役割について、訪問看護の研修を通して学び、視野を広げることを目的に本研修を設定した。

２）研修内容

研修日時：2024 年 9 月～12 月の期間のうち、2 日間連続した平日 8 時 30 分～17 時 00 分

研修場所

〇コープあいち福祉サービス豊橋北訪問看護ステーション

〇訪問看護ステーション はまな

〇穂の国訪問看護ステーションみゆき

〇みんなのかかりつけ訪問看護ステーション豊橋

〇気の里訪問看護ステーションノウタス

対象者：看護職免許を有する者（経験は問わない）

参加費：無料

研修構成

2 日間、訪問看護ステーションの訪問看護師と同行訪問を行い、毎日「訪問看護記録用紙」に学びと感想を記録し、施設担当者に提出する。研修終了後には「訪問看護研修報告書」を本センター及び訪問看護ステーションに提出する。

３）活動内容

（１）参加者募集

・2024 年 5 月に看護学科臨地実習病院に対して、メール（一部郵送）で訪問看護ステーション研修実施予定の案内文を送付し、2024 年 6 月に参加者募集案内を行った。

・参加者の申し込みは、専用申込書へ記載したうえで返信を受ける方法とし、申し込み期限は 2024 年 7 月 31 日とした。

（２）研修準備

訪問看護ステーションと研修生の日程等の調整を以下のスケジュールで行った。

日程	調整内容	
	病院	ステーション
3 月		協力依頼
5 月	研修申し込み募集告知	研修詳細説明・受け入れ体制確認
6 月	研修生募集連絡（期日～6/31） 訪問看護ステーション研修生募集案内、 訪問看護ステーション概要表、 訪問看護ステーション日程調整表の送付	受け入れ日程問い合わせ
6 月	申し込み受け付け 締切期日の延長（～7/31）連絡	
8 月	研修生への諸連絡 ・研修先、日程の連絡 ・誓約書、誓約書見本、記録用紙、報告書の送付	研修先、日程の選定後、研修日程連絡
9 月	誓約書の未提出、事前連絡がない研修生施設への連絡	研修開始
10 月	研修報告書の受け取り	研修生報告書送付
12 月	研修報告書の受け取り	研修終了、研修報告書の送付
1 月	研修報告書の未提出者への対応 研修報告書の受け取り 今年度の研修協力の御礼連絡	研修生報告書送付
2 月		次年度協力依頼・アンケート

（３）研修役割担当

訪問看護ステーション研修受け入れ調整：蒔田寛子

訪問看護ステーションと研修生の日程調整：井上直子、笹木りゆこ

研修生報告書取りまとめ：井上直子、笹木りゆこ

３）研修実施状況

研修は 9 月から 12 月にかけて 5 つの訪問看護ステーションで行われ、研修生 10 名が参加した。研修日程は連続する 2 日間とした。参加した研修生の所属は、病院 7 名、大学 3 名だった。看護職としての経験年数は 4.5～25 年で 9 名の研修生が訪問看護の経験がなかった。

訪問看護ステーション別　研修状況概要

訪問看護ステーション名	研修月	研修生所属（人数）
コープあいち福祉サービス豊橋北 訪問看護ステーション	9 月	岡崎市民病院（１）
訪問看護ステーション はまな	10 月・11 月・12 月	豊橋市民病院（１） 豊橋創造大学（２）

穂の国訪問看護ステーションみゆき	9 月・11 月・12 月	岡崎市民病院（２） 豊橋市民病院（１）
みんなのかかりつけ 訪問看護ステーション豊橋	9 月・11 月	岡崎市民病院（１） 豊橋市民病院（１）
気の里訪問看護ステーションノウタス	11 月	豊橋創造大学（１）

４）訪問看護研修報告書内容

研修後に提出された報告書によると、全ての研修生が本研修を有意義であったと評価していた。以下に研修生の報告内容を一部抜粋した。

・病院と在宅看護の違いが意識でき、患者の退院後の生活を理解するためのコミュニケーションと在宅で活用できる資源紹介の必要性を感じた。
・在宅医療に向けた情報提供の必要性を学んだ。
・退院指導において在宅でご家族が実践可能なケアの具体的指導方法を再検討する必要性が検討できた。

５）今後の課題

訪問看護ステーションは、アンケート形式で次年度の改善点等を聞いたが、特になしとのことだった。研修生は、病院・大学所属研修生ともに本研修を有意義であったと評価している。本研修は、病院の看護師だけでなく、大学教員にとっても有益であると考えられる。次年度は、対象の研修生募集方法を拡大し、大学教員にも募集案内を行う。事務局の課題は、研修生の提出物遅れへの対応がある。研修前の誓約書、研修後の訪問看護研修報告書は、数件の遅れがあったため、事前の丁寧な連絡を行う必要がある。提出物の遅れがない連絡方法は、今後検討する。

■　家族支援研修会

担当：蒔田寛子、山口直己、林美佐

１）研修目的

本研修は、家族支援に関する実践的な知識と技術を深めることを目的とする。渡辺式家族アセスメント／支援モデルを用いた事例検討を通じて、対象者の家族関係や支援の必要性を分析し、適切な介入方法を学ぶ。また、多職種連携の重要性を理解し、地域包括ケアシステムの推進に向けた連携の在り方を探ることを目的とする。研修では、事例検討に加え、災害時の対策、新たな看護技術の方向性、感染症予防といったトピックスについての学習を行い、在宅看護を中心とした最新の知見を得る機会とする。多職種との意見交換を通じて、異なる視点を取り入れながら、より質の高い家族支援を実践できることを目指す。

２）研修内容

研修日時

第 1 回：2024 年 6 月 29 日（土）13:00～16:15

第 2 回：2024 年 10 月 19 日（土）13:00～16:15

第 3 回：2025 年 2 月 15 日（土）13:00～16:15

開催場所：豊橋創造大学 D11 教室

対象者：看護師、保健師、介護支援専門員等

定員：各回 40 名

参加費：500 円／回

研修構成

講義

・「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」ワークシートの説明

事例検討

・渡辺式家族アセスメント／支援モデルを活用した事例分析

・困難事例に対する支援の在り方の検討

トピックス講義

第 1 回：災害時の対策

第 2 回：新たな看護技術の方向性～看護師がエコーを使う～

第 3 回：感染症とその予防　在宅医療における感染予防～近年の研究成果から～

３）活動内容

（１）参加者募集

・2024 年 5 月に看護学科臨地実習施設に対して、メール（一部郵送）で家族事例研修会の案内文とポスターを送付した。

・参加者の申し込み方法は Google フォームとし、期限は第 1 回：6 月 21 日、第 2 回：9 月 23 日、第 3 回：1 月 13 日とした。

（２）研修会準備

・本研修会が、主任介護支援専門員更新研修受講要件に該当するよう申請し、承認を得た。

・各回の研修会で事例検討に使用する事例提供を依頼した。

（３）研修会役割担当

講義：蒔田寛子（第 1 回、第 2 回)、山口直己（第 3 回）

事例検討ファシリテーター：蒔田寛子（全回)、山口直己（全回)、林美佐（全回)、
笹木りゆこ（第 1 回）

トピックス講義：笹木りゆこ（第 1 回)、山口直己（第 2 回)、林美佐（第 3 回）

４）研修会実施状況

・参加者数

第 1 回：32 名　第 2 回：15 名　第 3 回：17 名

延べ人数：64 人（複数回参加：17 名）

・参加者職種（アンケート結果から把握）n=60

ケアマネージャー	37 名（61.7%）
看護師	19 名（31.7%）
保健師	3 名（5.0%）
生活相談員	1 名（1.7%）

・参加者所属機関（アンケート結果から把握）n=59

病院	7 名(11.9%)
訪問看護ステーション	8 名(13.6%)
高齢者施設	1 名（1.7%）
地域包括支援センター	1 名（1.7%）
保健所	3 名（5.1%）
居宅介護支援事業所	36 名（61.0%）
デイサービス	1 名（1.7%）
通所介護事業所	1 名（1.7%）
その他	1 名（1.7%）

５）参加者アンケート結果

（１）アンケート回答者数

第 1 回：27 人／32 名（84.3%）、第 2 回：14 人／15 名（93.3%）、第 3 回：16 人／17 名（94.1%）

合計：57 人／64 名（89.1%）

（２）家族支援の事例検討について

a.回答結果

「とてもよかった」：38 人（66.7%）

「良かった」：19 人（33.3%）

「良くない」「非常によくない」：0 人

b.回答理由の要約

・渡辺式家族アセスメント/支援モデルの実践を学び、理論に基づいたアセスメントを深める機会となった。

・他職種の意見や異なる視点を取り入れながら、多様な事例を検討できたことが有益だった。

・具体的なケースの分析を通じて、実際の支援に活かせる知識を得ることができた。

・経験の異なる参加者同士の意見交換が学びになり、支援方法の選択肢を広げることができた。

（３）トピックスについて

a.回答結果

「とてもよかった」：31 人（54.4%）

「良かった」：26 人（45.6%）

「良くない」「非常によくない」：0 人

b.回答理由の要約

第 1 回（災害時の対策）

・災害時のトイレ事情や排泄に関する課題についての理解が深まった。

・簡易トイレの実物を体験でき、利用者への指導や自身の備えに役立った。

・災害時に必要なトイレ備蓄の重要性を学ぶことができた。

・具体的な対策が明確で、実践に活かしやすかった。

第 2 回（看護技術の新たな方向性～看護師がエコーを使う～）

・最新の看護技術を学ぶ機会が貴重であり、特にエコーの活用に関心が持てた。

・浣腸の危険性やグリセリン浣腸のデメリットなど、実際の臨床で役立つ知識が得られた。

・患者の安全確保や苦痛軽減のために、新しい技術の導入が重要であると感じた。

・通常の業務では学ぶ機会が少ない内容であり、興味深く学べた。

第 3 回（在宅医療における感染予防～近年の研究成果から～）

・感染リスクの回避だけでなく、利用者やその家族の気持ちを考慮する必要性を再認識した。

・訪問看護ステーションの実例報告を通じて、現場のリアルな課題を知ることができた。

・最新の感染予防策を学び、実際の看護業務に活かせる知識を得られた。

・在宅医療における感染対策の現状と課題を具体的に学ぶことができた。

（４）今後取り上げてほしい研修内容の要約

・多職種連携の強化

・意思決定支援

・ヤングケアラーやカスタマーハラスメントへの対応

・虐待防止・虐待対応
・災害時支援の継続的な学習

６）今後の課題

（１）参加人数

各回の定員を 40 名としたが、D11 教室の広さ、スリッパの数、ファシリテーターの数、全てのグループの発表してもらうことを考えると 20 名程度がよい。

（２）募集方法

・各回の募集ではなく、複数回の申し込み可としたが、キャンセルが多く発生した。そのため、各回に受付期間を設ける方法がよい。
・スマホを持っていないため QR コードからの申し込みができず電話と郵送で対応するケースがあった。電話で対応も可能になるようポスターに連絡先を入れるとよい。
・実習施設の所属長あてに研修会の募集案内をしたが、実習施設以外からの参加者も多くいた。研修会の案内方法について検討が必要である。

（３）トピックスについて

研修会参加者のほとんどがケアマネージャーのため、トピックスで扱う内容を検討する必要がある。「今後取り上げて欲しい研修」の回答を参考にしていく。

※参考資料

豊橋創造大学看護学研修センター研修会

家族支援の事例検討会

～ケアの質向上を目指した病院と地域の連携の在り方～

- 渡辺式家族アセスメント／支援モデルを使用した事例検討会を行います。モデルをもとに事象を分析し支援に生かすように努めることで、困難な事例との関係が変化する経験をしてきました。様々な職種とともに検討することで、視野が広がり、とても参考になります。
- 地域包括ケアシステムを推進していく上で多職種連携は欠かせません。事例検討を通して、互いをよく知り、保健・医療・福祉関係者の連携を進めていきましょう。事例検討とトピックスについての意見交換会です。

※本研修は、主任介護支援専門員更新研修受講要件に該当し、修了証が発行されます。

対　象：看護師、保健師、介護支援専門員等
場　所：豊橋創造大学　D11教室
定　員：40名／回　（定員なり次第締め切らせていただきます）
参加費：500円／回（当日現金による支払い）

第1回
2024年6月29日(土) 13:00～16:15（申込締切：6/21）
延長しました
①事例検討
②トピックス「災害時の対策」

第2回
2024年10月19日(土) 13:00～16:15　（申込締切：9/23）
①事例検討
②トピックス「新たな看護技術の方向性」

第3回
2025年2月15日(土) 13:00～16:15　（申込締切：1/13）
①事例検討
②トピックス「感染症とその予防」

ご　予　約
お問い合わせ

豊橋創造大学看護学研修センター内
家族支援研修会事務局
E-mail : k-kango@sozo.ac.jp

【お申し込み方法】
右のQRコードより
お申込みください

４．卒業生継続教育事業

担当：河合洋子、山本義昭

本年度は、卒業生継続支援事業として来年度以降開始する内容について検討を行った。

■　卒業生支援研修会（名称仮）

１）研修会目的

本研修会は、卒業生の継続的な学びとキャリア形成を支援することを目的とする。同窓会やキャリアセンターと協働し、卒業生が年に一度大学に集い、在校生や教員と交流する機会を提供することで、情報交換や人的ネットワークの構築を促進する。また、進学や転職に関する相談支援を行い、卒業生が自身のキャリアパスを明確にし、看護職としての成長を継続できるよう支援する。さらに、最新の看護知識や医療現場の動向に関する情報提供を通じて、実践力の向上を図る場とする。

２）活動内容

・他大学看護学科の卒業生支援の実践例について情報収集をした。
・本学のキャリアセンター及び地域連携・広報センターで実施が検討されているホームカミングデーの準備状況を確認した。
・2023 年度から看護学科保健師選択コースが学園祭日に合わせて実施している卒業生と在学生の交流会に参加し、参加者に対して卒業生支援研修会に関するアンケートを実施した。

３）保健師選択コース卒業生と在学生交流会でのアンケート結果概要

交流会の参加者は卒業年度 2017～2024 年度の卒業生 21 名が参加していた。参加動機は「誘われた」「友達・先生に会いたい」「みんなの状況を知りたい」であった。交流会で話した内容は、「近況報告（仕事・職場のこと）」「キャリアアップ」「保健師の実際」「先輩後輩の相談」「大学時代の話」「待遇（休み、給料等）」「プライベート（結婚、出産、育児等）」などであった。

卒業生支援研修会で行ったら良いと思う内容は「情報交換」が中心で、「セミナー・講演」「相談会」「雑談」は少数であった。開催時期は、創造祭の時期が一番多く、時間帯は午後がよいという回答であった。

４）来年度実施案

研修会目的、アンケート結果をふまえ、来年度の実施案を以下のとおり検討した。

開催日時案：2025 年 10 月 25 日（土）13:00～15:00 ※創造祭初日

研修内容案

・看護学科教員による最近のトピックスなどに関するミニセミナー
・卒業生同士の情報交換会（自己紹介、近況報告、歓談）
・今後のキャリアプランに関する教員への相談

５）今後の課題

参加者を増やすための広報方法や案内の工夫が必要となる。具体的には、同窓会やキャリアセンターと連携し、卒業生への情報発信の強化を図ることが重要であるため、SNS やメールを活用した案内も検討が必要である。また、幅広い卒業年度の参加者を増やすことも課題となる。特に、長年臨床で経験を積んだ卒業生の参加を促し、多様なキャリアパスの共有を図ることが望ましい。そのため、卒業生の年代別のニーズを把握し、世代を超えた交流の場をどのように設けるか検討する必要もある。

まずは、初回実施後に参加者の意見を収集し、次年度以降の内容を適宜見直すことで、継続的な研修会の開催につなげていく必要がある。

Ⅲ．看護学研修センター運営委員会

１．2024 年度運営委員会組織

センター長：藤井徹也

運営委員：蒔田寛子、桂川純子、河合洋子、西澤和義、山本義昭

２．2024 年度運営委員会会議

第 1 回

日時：2024 年 4 月 5 日 10：40～11:50

議題：設立記念講演会報告、2024 年度活動計画、2024 年度外部評価委員

第 2 回

日時：2024 年 5 月 1 日 13：10～14：40

議題：運営委員会会計業務、2024 年度活動進捗状況、印鑑作成、その他

第 3 回

日時：2024 年 6 月 5 日 13：10～14：40

議題：研修センター関連メールアドレス、2024 年度活動進捗状況、印鑑保管場所、その他

第 4 回

日時：2024 年 7 月 3 日 13：10～14：30

議題：2024 年度活動進捗状況、2024 年度報告書

第 5 回

日時：2024 年 9 月 4 日　13：10～14：00

議題：2024 年度活動進捗状況、2024 年度報告書、2025 年度予算

第 6 回

日時：2024 年 10 月 2 日 13：10～14：40

議題：2024 年度活動進捗状況、2025 年度予算、ホームページ、その他

第 7 回

日時：2024 年 11 月 6 日 13：10～14：40

議題：2024 年度活動進捗状況、ホームページ、2024 年度外部評価委員

第 8 回

日時：2024 年 12 月 4 日 13：10～14：10

議題：2024 年度活動進捗状況、ホームページ、2024 年度外部評価委員

第 9 回

日時：2025 年 1 月 8 日 13：10～13：40

議題：看護技術研修会、ホームページ、2024 年度外部評価委員会

第 10 回

日時：2025 年 3 月 5 日 14：50～16：00

議題：2024 年度活動進捗状況、ホームページ、2024 年度外部評価委員会、2025 年度予算

Ⅳ．協力教員

豊橋創造大学保健医療学部看護学科

教授 原沢優子、准教授 山口直己、講師 井上直子、講師 笹木りゆこ、助教 林美佐、
助手 髙野純平、助手 渡邉富士子

Ⅴ．看護学研修センター評価委員会

１．2024 年度評価委員会組織

センター長：藤井徹也

外部評価委員：小松景子（豊橋市民病院）、吉原郁仁（事務局長）

運営委員：蒔田寛子、桂川純子、河合洋子、西澤和義、山本義昭

２．2024 年度評価委員会会議

2024 年度　豊橋創造大学看護学研修センター評価委員会

日時：2025 年 3 月 19 日 16:00～17:00

議題：2024 年度外部評価委員による評価

Ⅵ．資料

１．新聞掲載　2024 年 7 月 1 日（月）　東海日日新聞

24年（令和6年）
3種郵便物認可　東日新聞　総合

豊橋創造大学看護学研修センター

"家族看護"考える

看護師ら対象の研修会第1回

援について話す蒔田看護学科長（豊橋創造大学で）

この春設立した豊橋創造大学看護学研修センター（豊橋市牛川町）で、看護師、保健師、介護支援専門員等を対象にした研修会が始まった。

6月29日は、第1回「家族支援の事例検討会」が行われた。市内外の医療機関に勤める看護師を中心に34人が参加した。

講義では、同大保健医療学部看護学科の蒔田寛子看護学科長が講師を務め、看護の基礎教育としての家族看護学について解説。「家族のリスクの多様化、階層化、普遍化のなかで家族支援を行っていかなければならない」と述べ、現代の家族の在り方や今後の問題点について話した。

そのうえで、援助者が家族の関係性を理解するためのツール「渡辺式家族アセスメント／支援モデル」を使用して事例検討会を行った。

参加者は、6つのグループに分かれて、事例を検討し、家族看護の必要性について理解を深めた。

研修センターでは、地域包括ケアシステムを推進していくうえで多職種連携は欠かせないとし、「事例検討を通して互いを良く知り、保健、医療、福祉関係者の連携を進めていきたい」と話した。

次回の「家族支援の事例検討会」は、10月19日午後1時から。予約、問い合わせは家族支援研修会事務局（E-mail：k-kango@sozo.ac.jp）まで。（吉富恵子）

２．新聞掲載　2025 年 3 月 17 日（月）　東海日日新聞

摘便に必要な最新知識など学ぶ

豊橋創造大看護学研修センターで研修会

豊橋創造大学看護学研修センター（豊橋市牛川町）で16日、「エビデンスに基づいた摘便の知識と技術」を学ぶ研修会が開かれた。市内外の看護師34人が参加し、摘便に必要な最新の知識とエコーの活用方法を学んだ。

看護技術研修事業の一つとして行われ、同大保健医療学部看護学科教授の藤井徹也センター長が講義を行い、演習は、同学科の教員たちがファシリテーターとなって実施された。

講義では、健康時の排便について確認した上で、摘便が必要な時のエコー観察や、患者の状態によって異なる摘便方法について話した。

演習では、直腸・ぼうこうを搭載したモデルを使ったエコー観察や摘便演習も行われた。

参加者らは現場での苦労や疑問点を解決する手だてを見つけようと、熱心に取り組んでいた。

藤井センター長は、「摘便の仕方の違いやエコー活用できることを知ってもらえれば」と話した。

看護学研修センターは昨年4月に開設。看護技術研究などを通して、看護実践の質の向上、同大卒業生への継続教育などに関する活動を行っている。

（吉富恵子）

エコー観察演習の様子（豊橋創造大学で）

豊橋創造大学看護学研修センター
〒440-8511　愛知県豊橋市牛川町松下 20-1
Tel：0532-54-2111
FAX：0532-55-0803
E-mail：kango-kensyu@sozo.ac.jp
URL：https://www.sozo.ac.jp/kango_kensyuu/